

巡回拠点なでしこ

かがやき

つうしん

北区立なでしこ小学校校長 戸倉 務

巡回拠点なでしこ 巡回指導教員

令和6年1月10日発行 第10号

巡回拠点なでしこ直通：3901-2622



あけましておめでとうございます。

冬休みは、日本の伝統的な文化に触れる行事が多くあるので、子供たちも自分たちの文化について知るよい機会になったことと思います。

今年も子供の成長を願って特別支援教室ではいろいろな学習を通して成功体験をさせていこうと思います。

今年もご協力よろしく願いいたします。

★保護者面談 ありがとうございます★

お忙しい中、お時間を作ってください、ありがとうございました。話し合ったことを指導に生かしていきます。なお、何かありましたら、連絡ファイルでお知らせください。また随時面談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

★今後の予定★

※予定は変更することもあります。毎月のおたより等でご確認をお願いいたします。

2学期	
冬休み後指導開始	1月10日(水)
3月保護者面談期間	3月4日(月)～15(金)
2学期指導終了	3月11日(月) 月曜日児童のみ、3月18日指導あり





今月のテーマ：読み書きが苦手な背景はどんなことがあるのだろう？

読み書きの困難さの背景

ノートの枠から文字がはみ出る、形が崩れ、文字の大きさがバラバラで読みにくい。また、黒板の文字を書き写したり、教科書を読んだりするのが苦手な子もいます。鉛筆の持ち方や使い方がぎこちなく、手先の細かい作業の苦手さがある子もいます。

その背景には、視覚機能や視覚情報の取り込みの処理に、つまずきがあることが考えられます。



目の動きのコントロール

板書や教科書を読むのが苦手な場合、平衡感覚のつまずきがあるかもしれません。この平衡感覚のつまずきは、眼球運動のコントロールにも影響を及ぼします。

視線を固定したり、遠近に視点を動かしたり、見ようとする対象物を目で追いかけたりすることがうまくできません。そのため、板書の際に頭を動かして、ノートと黒板を交互に見ると視点が安定せず、どこを見ていたのか分からなくなってしまうということが起きます。

平衡感覚は、体のバランスを調節したり、筋肉の張り具合を調節する固有感覚と連動して、姿勢を保持したりする働きや、眼球運動のコントロールも支えています。例えば、揺れる電車内で読書ができるのは、頭の揺れや傾きに依って視線を安定させているからです。

ポイント1 平衡感覚を育てる

平衡感覚は、姿勢を立て直したり、眼球を反射的にコントロールしたりすることにつながります。そのため平衡感覚につまずきがあると、自分の体の位置や姿勢、動いているときの状態がつかみづらく、眼球運動のコントロールが難しくなります。回転いすに座り、体を回転させた後の眼振の現れ方（目が回りやすい子と回りにくい子がいる）や、目を閉じた状態で片足立ちをさせてみると、平衡感覚につまずきがあるかが把握できます。（眼振・・・眼球が痙攣したように動いたり揺れたりすること）

平衡感覚を育てるには、揺れや体の動き、回転を感じるトランポリンやバランスボール、ジャングルジムなどの遊びが効果的です。



ポイント2 眼球トレーニングが必要

学校の授業では見て書き写す、模倣する、観察するというように見る場面が多く、眼球運動のコントロールがうまくできないと勉強そのものへの苦手意識も生まれやすくなります。学びをスムーズにするためには眼球運動のトレーニングが有効に働く可能性があります。遠くを見てから近くを見る動作を繰り返す、ボールや振り子などの動くものを目で追いかける・キャッチするといった遊びや運動がよいでしょう。

参考文献
発達の子になる子の
体の動き
しくみとトレーニング

川上康則監修
ナツメ社